

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
公衆栄養学実習	3年次	必修	実習	1単位（45時間）	真島 和徳 ※
授 業 概 要					
<p>地域・職域の公衆栄養活動について、保健所や市町村で行われている企画から実施・評価に至る一連の流れについて実習を通じて総合的に学習する。公衆栄養活動における情報の収集処理の仕方、問題の整理の仕方、活動計画の構成表の作成・実施・評価法を学ぶ。指導媒体（教材）の作成・実施・評価、地域における保健・医療・福祉・介護システムの理解、メタボリックシンドローム・生活習慣病予防等の各種教室の企画・実施・評価等の実際を学ぶ。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域及び職域における公衆栄養活動の実際を踏まえて、公衆栄養アセスメント、公衆栄養プログラムの計画、目標の設定、実施、評価について体験する。</li> <li>・公衆栄養学臨地実習を視野に入れて、調査活動、栄養教材作成など含め体験し理解を深める。</li> </ul>					
実務経験のある教員					
真島 和徳：新潟県（病院、保健所等）での現場経験を踏まえ、地域・職域等における公衆栄養活動についてどのように展開されるのかを概説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1・2 3・4 5・6 7・8 9・10 11・12 13・14 15・16 17・18 19・20 21・22 23・24	<p>公衆栄養実習オリエンテーション 意義 目的 地域・社会集団の実態把握            栄養・食事調査の手法の理解 食材の重量把握            食事摂取量の測定の実際 秤量法、食物摂取頻度調査法、24時間食事思い出し法エクセルの活用 基本統計量の把握            調査法の比較（妥当性）と集団による栄養アセスメントについて            対象集団の分析と栄養アセスメントの実際1            対象集団の分析と栄養アセスメントの実際2            まとめ① 健康・栄養改善のためのプレゼンテーション            健康日本21（2次）及び都道府県や市町村での健康・栄養・食生活施策とそれに関わるデータ情報を収集し合わせながら課題解決の手法を学ぶ。1-2            3            まとめ② 健康・栄養改善のためのプレゼンテーション</p>				真島 和徳 ※
学 習 方 法					
<p>インターネット検索や文献検索、数値入力など理解したうえでコミュニケーションを密に、グループワークは作業分担すること。まとめの作業は丁寧に行い、理解を深めること。            栄養計算ソフトがインストールされた、ノートパソコンがあるとよい。</p>					
評 価 方 法					
<p>〔評価方法〕            欠席・遅刻、早退が極力ないことが望ましい。            評価は、個人課題レポート内容を重視し、課題レポートは、すべて提出された上で成績評価とする。</p>					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
<p>〔教科書〕            食事調査マニュアル改訂3版 はじめの一步から実践・応用まで 日本栄養改善学会（南山堂）            〔参考書〕            管理栄養士養成課程「栄養管理と生命科学シリーズ」公衆栄養学の科学（理工図書）            日本人の食事摂取基準（2020年版）（第一出版）            わかりやすいEBNと栄養疫学（佐々木敏：同文書院） 公衆栄養学ワークブック（株みらい）            国民健康・栄養調査の報告（健康・栄養情報研究会編：第一出版）            国民衛生の動向（厚生統計協会）            よくわかる統計学〈介護福祉・栄養管理データ編〉（蘆志和、広田直子、石村貞夫：東京図書）等</p>					